



深圳の朝





行政区画／北京市／上海市／天津市／重慶市／

香港特別行政区／澳門（マカオ）特別行政区／台湾／都市化の進展

# 行政区画と都市

現在、全国は 23 省、5 自治区、4 直轄市、2 特別行政区に分けられている。改革開放後、経済の急速な成長に伴い、中国の都市化の進展がたえず加速し、都市の建設と発展は世界に注目される成果を上げた。それと同時に新たな問題をもたらしている。都市化の進展と積極的かつ着実に推し進めることは 21 世紀の中国が直面する重要な課題である。





# 行政区画

全国には省、自治区、直轄市が置かれている。省、自治区には自治州、県、自治県、区を設置する市が置かれている。県、自治県には郷、民族郷、鎮が置かれている。直轄市と比較的大きな市には区、県、区を設置しない市が置かれ、自治州には県、自治県、区を設置しない市が置かれている。自治区、自治州、自治県はいずれも民族自治区区域である。

国は必要な場合、特別行政区を設立する。特別行政区内で実行する制度は具体的な状況に基づき、全国人民代表大会によって法律で定められる。

現在、全国には 23 の省、5 つの自治区、4 つの直轄市、2 つの特別行政区がある。

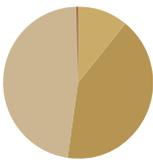
図例	
	首都
	省クラスの行政中心
	国境線
	未画定国境線
	省、自治区、直轄市の境界
	特別行政区境界

## 中国の行政区画略図

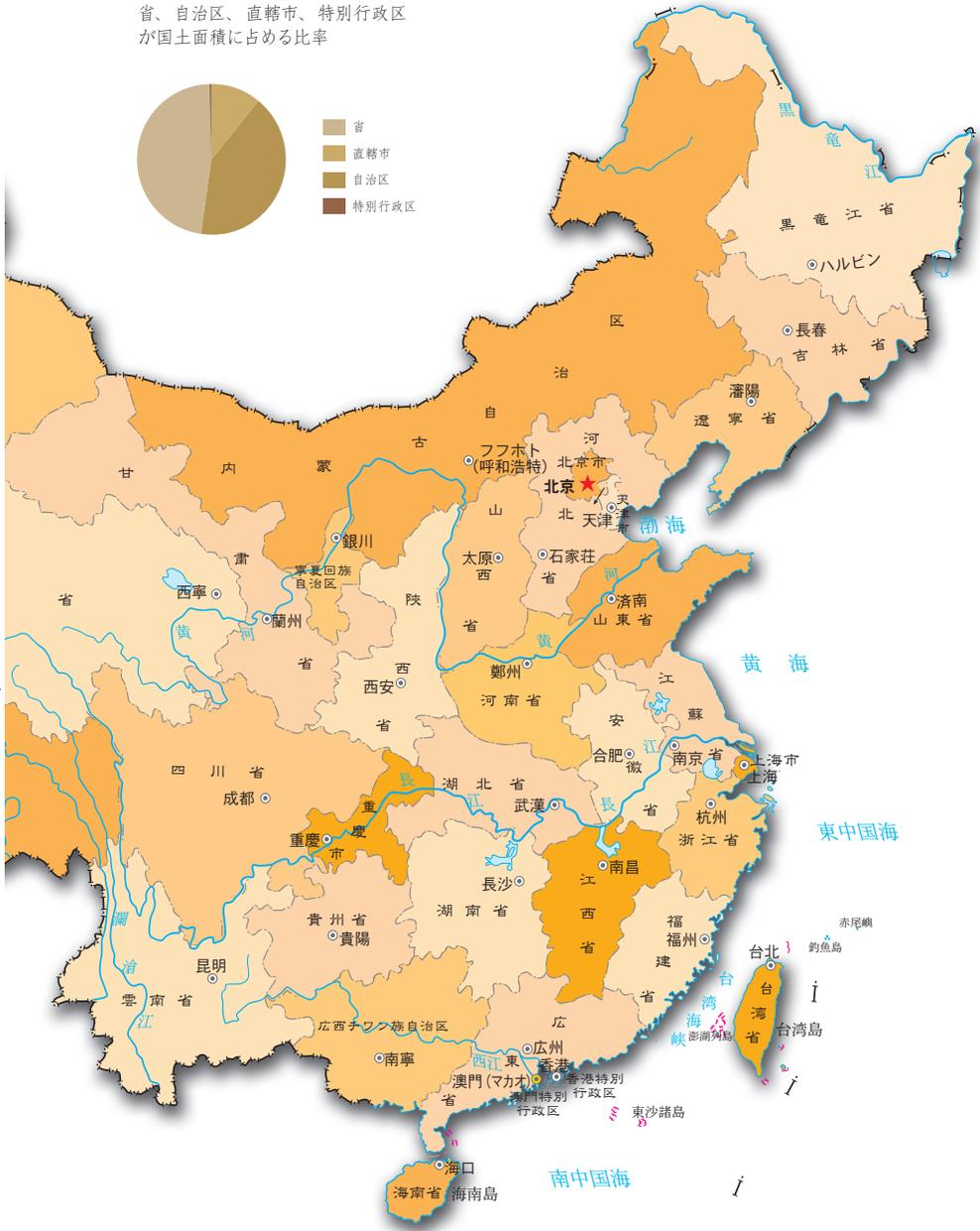




省、自治区、直辖市、特别行政区  
が国土面積に占める比率



- 省
- 直辖市
- 自治区
- 特别行政区





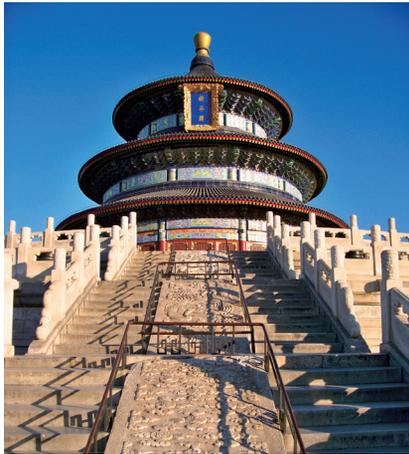
## 北京市

中国の首都北京には 3000 年余りの町としての歴史と 850 年余りの都としての歴史がある。中国の政治・交通・文化の中心であり、第 29 回オリンピック競技大会もここで開催された。

北京は 6 つの王朝の都で、数多くの宮廷建築が建てられた。帝王の宮殿、庭園、廟壇、陵墓の数は中国で最も多く、内容も最も豊かである。なかでも故宮は世界に現存する最大の宮殿、天壇は中国に現存する最大の古代祭祀建築物群であり、頤和園は中国で最も有名な皇室庭園である。明十三陵は北京最大の皇家陵墓群である…。むかし北京では四合院が主な民居建築で、正房・倒座房・東西厢房で中庭を囲んだ四合院が北方伝統住宅の通称でもあった。黒瓦の屋根と灰色の煉瓦で造られた四合院と四合院の間の狭い路地が、旧北京の有名な胡同である。北京には世界で最も多くの世界遺産がある。

北京は中国で最も重要な金融と商業の中心で、多くの多国籍企業が北京に本部を構えている。2010 年の「世界企業番付トップ 500 社」のうち 30 社の出先総本部が北京市にあり、世界の都市で第 2 位である。北京は「世界 15 大ショッピング・シティ」に選ばれた唯一の中国内地の都市で、100 を超える大中型ショッピングマーケットを擁している。王府井大街、前門大柵欄、西単商業街は北京の伝統的なショッピングエリアであり、国貿商城、東方新天地、中関村広場は近年ニューエリアとして賑わいを見せている。

北京の位置づけは、国の首都、国際都市、歴史文化名城、住みやすい都市で、目標は 2020 年までにグローバル経済システムの中核、世界都市ネットワークの大きな結び目になることである。



天壇の祈年殿



北京国貿ビジネス中心区 (CBD)



## 上海市

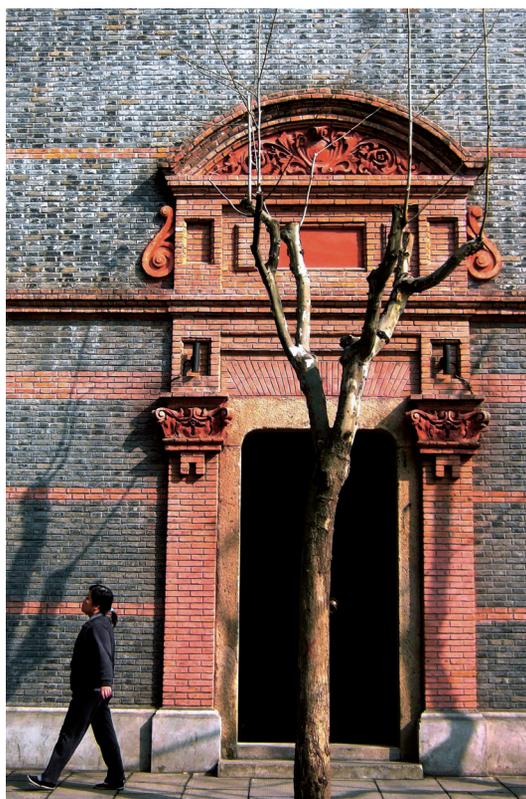
上海は中国大陸第1の大都市で、中国大陸の経済・金融・貿易・港運の中心である。第41回万国博覧会も上海で開催された。

上海は中国最大の貿易港、最大の工業基地であり、上海の経済総量、1人あたりのGDP(国内総生産)と1人あたりの可処分所得で中国大陸の都市のトップを占めている。

上海の文化は「海派文化」と呼ばれ、中国の長江以南の伝統文化を踏まえ開港後に入ってきた欧米文化などと融合し徐々に形成されたもので、レトロと同時にモダンで、伝統的でありながら洗練されている。

国際的な大都会である上海には高層ビルが随所にそびえ立ち、上海の繁栄と発達を象徴している。その一方で、楓涇古鎮など独特な長江以南のひなびた風情が漂う場所もある。外灘(旧称バンド)と田子坊の石庫門路地は中国風と西洋風が一緒になっ

上海の石庫門(桝を石材で築いた表門) 建築



た上海ならではの雰囲気濃い。浦西の外灘沿いは欧米様式の石造建築物が建ち並んで見映えのいいファサードを形成し、まるで「世界の建築博覧会を見るようだ」と言われる。

近代都市としての文化的蓄積と数多くの歴史的旧跡が国内外から多くの観光客を引きつけている。上海は中国最大の海外観光客の目的地で最大の豪華客船の寄港地でもあり、上海での豪華クルーズ観光業は中国の70%以上を占めている。

現在、上海は2020年までに国際金融センターと世界航運の中心になることをめざしている。





上海





天津港

## 天津市

天津は中国北方の経済の中心で、国際的な港湾都市、環境都市（エコシティ）である。環渤海経済圏の中心にあり、北方最大の沿海開放都市で、近代工業の発祥地、近代の北方において最も早く対外的に開放された沿海都市の1つで、北方の海運・工業の中心である。600年余りにわたる激動の歴史を経て、特に近代の100年間に、中と洋が合体し古今を包容した独特な都市景観が造りあげられた。「近代百年を見るなら天津」と言われている。

中国第4の工業地区と第3の貿易港を擁する大都市として、2006年に濱海新区が国家級新区（新区に適用する政策がここにも適用されることになる）に指定されてから、天津はふたたび急ピッチで発展の軌道に乗り、2013年には第6回東アジア競技大会も開催される。

## 重慶市

重慶は中国の南西部に位置し、4つある中央直轄市の1つ、5大中心都市の1つである。また長江上流地区の経済の中心と金融の中心で、「国家都市農村総合改革テストケース」



「山の町」と呼ばれる重慶

にもなっている。その構内には3つ目の国家級新区—两江新区もある。

重慶はかつて抗日戦争期間の「暫定首都」で独特な抗戦文化が育った。地理的な環境のため山が多く霧も多くて、重慶には「霧都」、「山の町」とも呼ばれている。重慶には大足石刻と武隆カルスト地形の2カ所の世界遺産があり、長江三峡は中国で最も名高い自然景観であり、「火鍋（鍋料理）」は代表的な食文化である。

近年、重慶は急ピッチで発展をとげ、西部地区の中心都市となっている。都市としての重慶の位置づけは歴史文化名城、長江上流の経済の中心、国の重要な現代製造業基地と西南地区の総合交通中核である。住みやすく、交通・通信が便利で、緑があふれ、治安のいい、健康的な重慶が、新しいモットーになっている。

## 香港特別行政区

香港特別行政区は、珠江河口の東岸に位置し、都市面積は1104平方キロ。人口は700万人以上

### 国家中心都市

「国家中心都市」とは全国において牽引・放射・集散機能をもち、政治・経済・文化の各分野にその機能が表れている都市をいう。2010年2月、国家住宅・都市農村建設部が公表した『全国城鎮（都市）体系計画』（草案）で5大国家クラス中心都市の構想が明確に打ち出され、環渤海地区の北京市と天津市、東部地区の上海市、華南地区の広州市、中西部地区の重慶市が指定された。



である。アジアにおける繁栄する大都市、地域および国際金融センターの1つであり、優れた自然条件に恵まれた天然深水港もある。廉潔な政府、良好な治安、自由的経済システムと完璧な法治体制で世界によく知られている。

1840年のアヘン戦争以後、3つの不平等条約でイギリスに占領されてきた。中国政府は1997年7月1日に香港に対する主権行使を回復し、これと同時に、香港特別行政区が正式に発足した。中国政府は香港特別行政区で「一国二制度」、「香港人による香港の管理」、「高度な自治」の基本方針を実行している。「一国二制度」とは、中国という統一国家の下で、大陸地域では社会主義制度を実行し、香港では現行の資本主義制度と生活様式を保ち、50年間変わらないということである。「香港人による香港の管理」とは、香港の人びとが自主的に香港を管理し、高度な自治を実行することである。香港特別行政区は行政管理権、立法権、独立した司法権および終審権を自主的に享有することである。香港特別行政区の現在の行政長官は曾蔭権氏。区旗は満開している紫荊花（ハナズオウ）の図案からなる。

香港は自由港であり、タバコ、アルコール度の高い酒、動力用燃料油（ガソリン、ディーゼルオイルなど）を除くその他の輸入品に対し関税を課さない。世界の貿易経済体系で11位、為替市場で6位、銀行センターで15位にランクされている。株式市場の規模

## 特別行政区

特別行政区とは、憲法のと定めるところにより、中華人民共和国の行政区域範囲内に設置された、特別な法的地位を持つ、資本主義制度と生活様式を保つ地方行政区域である。

香江の夜景





はアジアで3番目となっている。香港はアパレル、時計・腕時計、おもちゃ、ゲーム機、エレクトロニクス製品、一部軽工業製品の主要な輸出地であり、輸出総額は世界の上位に入っている。大陸部は香港最大の貿易パートナーであると同時に、香港の飲料水や野菜、肉類、家禽類、たまごの主な供給源でもある。

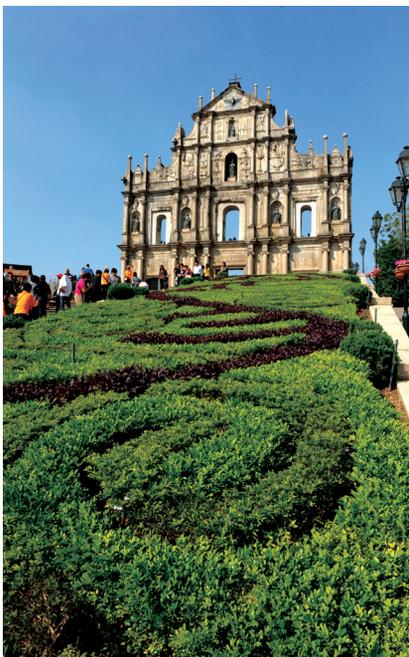
## 澳門 (マカオ) 特別行政区

澳門特別行政区は、珠江河口の西岸に位置し、総面積は32.8平方キロ、人口が50余万人、世界で人口密度が最も高い地域の1つである。

歴史上、澳門はポルトガルに占領されてきた。中国政府は1999年12月20日に澳門に対する主権行使を回復した。これと同時に、澳門特別行政区が正式に発足した。中国政府は澳門特別行政区で「一国二制度」、「澳門人による澳門の管理」、「高度な自治」の基本方針を実行している。「一国二制度」とは、中国という統一国家の下で、大陸地域では社会主義制度を実行し、澳門では現行の資本主義制度と生活様式を保ち、50年間変わらないということである。「澳門人による澳門の管理」とは、澳門の人びとが自主的に澳門を管理し、高度な自治を実行するということである。澳門特別行政区政府は行政管理権、立法権、独立した司法権および終審権を自主的に管理する権限を享有することである。澳門特別行政区の現在の行政長官は崔世安氏である。区旗は満開している蓮の花の図案からなる。

澳門は東西文化の融合と共存により、独特な都市となっている。古色蒼然とした伝統的廟宇もあれば、おごそかな天主堂もある。数多くの歴史文化遺産が散在し、美しい海辺の景色も楽しめる。

澳門は中国の2つの自由貿易港の一つであり、モノ・人員が自由に出入りし、資金・外貨が自由に流出入している。従来から「東洋のモンテカルロ」と称され、観光業とカジノ業は最も重要な経済の支柱である。



澳門 (マカオ) のセント・ポール天主堂跡





## 台湾

台湾は中国南東沿海部の大陸棚に位置する中国最大の島である。現在台湾地区と称されているのは、台湾本島やその付属島嶼、澎湖諸島、金門、馬祖などの島嶼を含み、陸地総面積は3万6000平方キロ。人口は約2300万人で、そのうちの98%は漢民族で、主な言語として閩南語（福建省南部の方言）と客家の言葉が使われている。人びとは主に儒教や仏教、道教を信仰しており、それは福建省、広東省などから移住した人たちが使っていたものである。台湾は商工業が発達しており、輸出志向型経済を主とし、情報産業と半導体産業は世界のトップを占め、「アジアの四匹の小さな竜」（台湾、香港、韓国、シンガポール）の一つと称されていた。

台湾は昔から中国の神聖な領土であり、早くも宋・元の時代に中国の王朝は台湾に対して効果的な管轄を行った。1895年に清王朝は甲午戦争（日本では一般に「日清戦争」といわれている）に敗れて台湾割譲を余儀なくされた。日本は台湾を占拠し、50年にわたる植民統治を行った。台湾同胞を含む中国人民の全力をあげての戦いによって、台湾は1945年10月に中国に復帰した。1949年、国民党支配集団は内戦に敗れて台湾へ撤退し、アメリカの後押しの下で大陸と対峙し、台湾問題はそこから生じることになった。

兩岸はいまだに統一されていないが、大陸と台湾が同じ中国に属する事実は変わることがなく、また国連やその他の国際機構やほとんどの国に認められている。台湾問題を解決し、国の完全な統一を実現することは、台湾同胞を含むすべての中国人の共通の念願と神聖な使命である。

60余年らい、中国共産党と中国政府は台湾問題の解決、中国の統一を目指してたゆまぬ努力をし、兩岸関係の絶えざる改善と発展を推し進めてきた。毛沢東、周恩来ら中央の第1世代指導グループは、台湾問題の平和的解決を目指す思想と「一綱四目」政策（「一綱」は台湾は必ず祖国に統一されなければならない、ということ。「四目」とは①台湾が祖国に統一された後も、外交は中央に統一されなければならないが、台湾の軍事、政治、人事の配置などはすべて蒋介石にゆだねてよい。②台湾の軍隊、政治、経済建設のすべての費用で不足するものはすべて中央政府から支給する。③台湾の社会改革はゆるやかにすすめてもよく、条件が熟することを待たなければならない、しかも蒋介石の見解を尊重するものとし、話し合いによって決めてからすすめる。④双方はお互いにスパイを派遣せず、相手方の団結を破壊するようなことをしない、ということ）を打ち出した。1979年元旦に全国人民代表大会常務委員会が『台湾同胞に告ぐる書』を発表し、国の平和的統一に取り組むことを示し、兩岸の「三通」（通商・通航・通郵）





台北 101 ビルを撮影する観光客





の実現、兩岸同胞の往来や交流の強化を呼びかけた。鄧小平氏は「一つの国、二つの制度」という偉大な構想を提起し、「平和的統一、一国二制度」方針の確立に歴史的な貢献をした。1995年に江沢民氏は現段階における兩岸関係を発展させ、国の平和的統一を推し進める8項目の主張を提起し、兩岸関係発展のプロセスを大いに促進した。2005年3月に開かれた第10期全国人民代表大会第3回会議では『反国家分裂法』が圧倒的多数の賛成で採択され、全国人民が「台湾独立」に断固として反対し、国家主権と領土の保全を守る共通の意志と確固たる決意を明らかにした。4月、胡錦濤総書記は連戦・中国国民党主席を招き、両党の指導者は60年来初の会談を行い、「兩岸の平和的発展への共同のビジョン」を発表し、「台湾独立」反対、「九二共通認識」の堅持という共通の政治的基盤をうち固めた。2007年、胡錦濤総書記は中国共産党第17回全国代表大会で、「台湾独立」の分裂活動に断固として反対し、それを食い止め、兩岸関係の平和的発展のテーマをしっかりと把握することを提起した。2008年3月、馬英九氏が台湾地区の指導者に選出され、国民党を代表して執政した。台湾情勢には積極的な変化が起こり、兩岸関係は得がたい歴史的なチャンスを迎えた。5月、胡錦濤総書記は呉伯雄・中国国民党主席(当時)と会談した際、国共両党と兩岸同胞がともに努力し、相互信頼を醸成し、論争を棚上げし、小異を残して大同につき、ウィンウィンをともに創り出し、引き続き「兩岸の平和的発展への共同ビジョン」に依拠するとともにこれを着実に実施し、兩岸関係がたえず実質的進展を得られるよう着実に推し進めることを強調した。12月31日に行われた『台湾同胞に告ぐる書』



台湾の阿里山で大陸の観光客と先住民のんびとが踊っているところ

## 兩岸貿易と人的往来

兩岸関係の改善に伴い、兩岸の経済貿易関係はいっそう緊密化し、人的往来とさまざまな分野での交流が拡大し続け、深まり、兩岸関係の平和的発展に寄与してきた。2010年の兩岸間の貿易額は前年同期比36.9%増の1453億7000万ドルに達し、大陸を訪れた台湾住民は延べ514万人で、前年同期比14.6%増え、台湾に行った大陸住民は延べ166万人で、前年同期比77.6%増え、そのうち、台湾への大陸観光客は前年同期比92.7%増の122万8000人に達した。2010年末現在、海協会と海基会は15項目の取り決めに合意し、2項目の共通認識に達した。大陸で投資している台湾系企業は8万3000社以上あり、投資額は520億ドルを上回った。大陸を訪れた台湾同胞は計6102万人、台湾に行った大陸住民は計451万人、台湾への大陸観光客は合計188万人を上回った。





発表 30 周年座談会において、胡錦濤総書記は「手を携えて兩岸関係の平和的発展を推進し、心をつなげて中華民族の偉大なる復興を実現しよう」と題する重要な演説を行い、兩岸関係の平和的発展の重要な思想を全面的かつ系統的に述べた。それは新しい情勢のもとで台湾関連の仕事を指導するための綱領的文書とみなされている。

ここ数年来、兩岸同胞の共同の努力のもとで、兩岸関係には大交流、大協力、大発展の局面が速いスピードでつくり出されている。2008 年 6 月に大陸の海峡兩岸関係協会（海協会）と台湾の海峡交流基金会（海基会）は、「九二共通認識」を土台にして 9 年間中断していた接触と交渉を再開し、兩岸直航便会谈紀要、大陸住民の台湾観光についての取り決めで調印した。7 月に大陸住民の台湾観光が本格的にスタートした。12 月、兩岸同胞が待ち望んでいた双方向の、直接的かつ全面的な「三通」がようやく実現した。2010 年 5 月に第 41 回万国博覧会が上海で開催され、40 年ぶりの台湾の参加は、兩岸の人の相互理解を深め、兩岸の交流や協力を促すうえで積極的な役割を果たすことになった。6 月、海協会と海基会は海峡兩岸経済協力枠組協定（ECFA）と兩岸知的財産権保護協力協定に調印した。それは、兩岸経済協力の制度化を示すものであり、兩岸関係の平和的発展における重要な一里塚となった。11 月に台湾は広州で開催された第 16 回アジア競技大会に参加し、7 位の好成績を収めた。そのほか、2010 年、台湾当局は大陸の名門大学 41 校の学歴の承認を発表し、大陸は大学 123 校が学力テストで最高レベルの成績を獲得した台湾の高校卒業生を試験免除で募集することを発表し、兩岸の大学学歴認証のうえで大きな進展がみられることになった。

## 都市化の進展

住みやすい都市・青島



改革開放の政策を実施して以来、経済の急速な発展に伴い、中国の都市化の進展が絶え間なく加速している。現在、中国の都市総数は 660 余である。それと同時に、都市建設と発展も世界に注目される成果を上げた。例えば、政治・文化・経済が調和的に発展

している新しい北京、歴史と流行が互いに輝きを放っている古都西安、国際大都市の輝きを再び築き上げつつある上海、飛躍的な発展をとげている経済特別区の深圳などがそれである…。これまでの 30 年らい、中国のほとんどの都市では大きな変化が現れた。

行政区画と都市 61





専門家の予測によると、21世紀において、中国には十大都市群が形成され、これらの都市群の地理的位置は沿海地区、内陸部の奥地、内陸部の辺境地区を含むものであり、これらの地方は中国における最も大きな発展の潜在力を秘めている区域である。その中で、20世紀末にすでに中国経済の主導的領域になっている京津冀（北京市・天津市・河北省）、長江デルタ、珠江デルタの三大都市群は、今後も中国の経済発展の流れを引き続きリードすることになる。「十二・五」（第12次五カ年計画）の期間、中国は都市化と都市発展の二重の転換の新たな段階に入り、都市化率が年平均0.8～1.0ポイント上り、2030年に約65%に達すると見込まれる。都市化の進展を積極的に、適切に推し進めることは、21世紀の中国が直面せざるをえない重要な課題である。

都市化の進展が加速している現状に対し、中央政府は戦略性と空間の拘束力のある区域計画に基づいて、人口、土地、環境と経済、社会の発展の関係を合理的に位置づけ、協調させ、秩序整然と中国の都市化の進展のコントロールに力を入れることにしている。都市づくりの中で、中国は「厳格に大都市の規模を制限し、合理的に中程度の都市を發展させ、積極的に小都市を發展させる」方針を実施している。人口20万ないし50万人の中程度の都市と人口20万人以下の小都市は20世紀80年代以後、急速な發展をとげ、100万人以上の大都市に対しては、その周りに計画的に衛星都市を發展させることを重点にしている。



都市化建設の主力である出稼ぎ者

都市規模の拡大、都市人口の急速な増加によって、都市化の過程の中で中心区の人口が密集し、交通が混雑し、環境の質が低下し、地価と家賃が高騰し、就業が困難になるなどの問題が現れている。現在、中国の都市では規模がさらに大きな都市建設が展開されており、出稼ぎ労働者の生活条件の改善により関心を寄せ、グリーン都市環境の構築により気をくばり、アメニティーの都市の建設を目指している。専門家の分析によると、二線、三線都市は将来的には出稼ぎ労働者の市民化と一部大卒の就業の新たな行き先、新たな区域となり、大都市の人口と就業を緩和させる新たな空間の受け皿になる。「デジタル都市管理の新しいモデル」がすでに中国の多くの都市で推し進められ、技術のプラットフォームをさらに完全なものにする上で、その成功的経験を総括した全国へ推し広める計画である。





大・中・小都市のバランスのとれた発展を統一的に計画し、東部地域と中西部地域の都市群が並び立つ枠組みを形成し、これは都市部と農村部の区域構造の最適化と調整を推し進め、経済を長期的に安定的、かなり急速に発展させることをバランスよく進める重要な任務になる。都市体系を区域の枠組みとする各種の都市区域経済体が基本的に形成され、都市区域経済の仕組が完備し、都市経済の集中度がさらに高められ、要素が大都市へさらに集まるようになる。専門家の予測によると、未来の中国区域経済発展の仕組は、南・中・北と東・中・西が交差している都市区域経済の枠組みとなり、すなわちハルビン・長春、環渤海、関中地区、長江デルタ、華中地区、成都・重慶、珠江デルタ、環海峡、北部湾（トンキン湾）などの都市区域経済体が形成される。都市圏によって牽引される区域経済発展の新しい仕組が基本的に形成され、区域関係はますます都市群の間関係を具現するようになり、都市群は中国経済の発展を促進する重要な成長ポイントとなる。

## 衛星都市

衛星都市の計画は中国の都市化の進展に伴う重要な問題であり、その発展は、大都市の拡張によって引き起こされた都市問題の解決にとって変わることのできない役割を果たしている。世界各国と同じように、中国の衛星都市は主に2種類ある。1つは大都市の人口、工業や科学研究機構などを分散させるために建設されたものであり、もう1つは大都市の周辺に新しい工業や第3次産業を発展させるために建設されたものである。

近年らい、中国の衛星都市の計画、建設面において次のような傾向を見せている。人口の規模を適度に大きくする。機能を多様化へと発展させる。仕事と住居のバランスをとる。先進的な交通システムを導入し、母体都市と便利かつ迅速に結びつける。新しい情勢の下で、中国政府は低炭素の発展の原則を堅持し、低炭素の衛星都市を建設し、母体都市と衛星都市および各衛星都市の間のバランスのとれた発展をめざすことを強調している。

グリーン外出を呼びかけ、市民の便宜をはかるため、多くの都市には公共自転車レンタルスポットが設置されている

